

タクマグループ 長期ビジョン「Vision 2030」

株式会社タクマ | 2021年5月

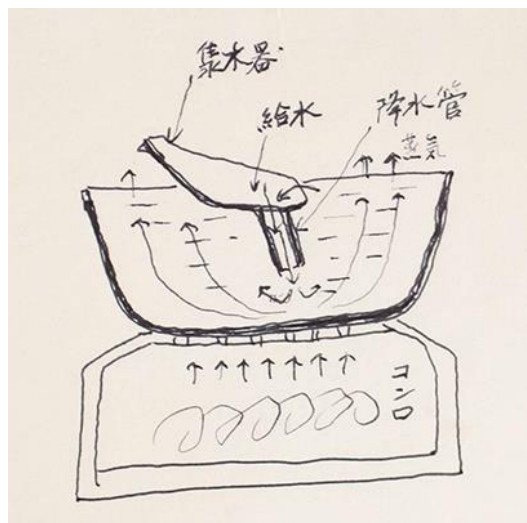
TAKUMA

① タクマの原点

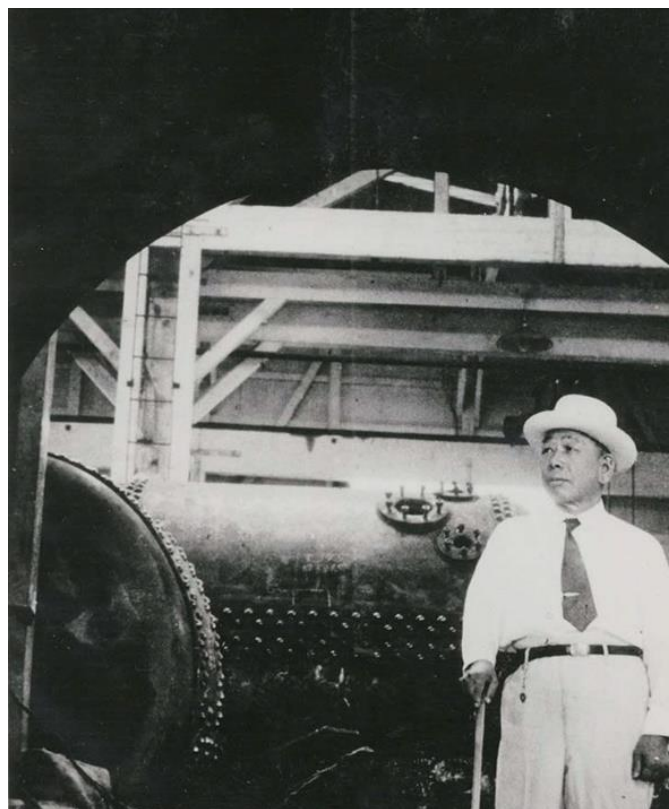
TAKUMA

創業者・田熊常吉は1912年、苦心研究の末に**独自の発想**に基づく「タクマ式汽罐」を発明し、当時主流であった外国技術を圧倒する性能により国内産業の発展に大きく貢献しました。

1938年には純国産によるボイラ技術の更なる発展を目指し、ボイラを通じて社会へ貢献するという『**汽罐報国**』の精神を掲げ、当社を創業しました。



罐水循環の実験に用いたスケッチとホーロク



ボイラと常吉翁



建設中の播磨工場

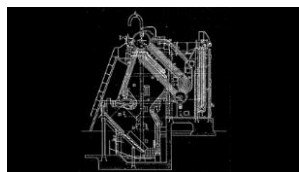


つねきち A 型 楽隊の演奏と共に初出荷

② タクマの歩みと価値観

TAKUMA

当社は、創業以来80年余にわたり常吉翁の**不屈の発明家精神**、『**汽罐報国**』の**精神**を継承し、いつの時代も、より新しい技術に挑戦し、創意工夫により新たな製品・サービスを世に送り出し、社会の発展と社会課題の解決に貢献してまいりました。『汽罐報国』すなわち「**世の中が必要とするもの、世の中に価値があると認められるものを生み出し、社会に貢献する**」ことがタクマグループの使命であり、創業以来変わらぬ価値観です。



1949年

業界初、
「バガス焚ボイラ(※1)」を輸出



1975年

世界初、真空式温水機
「バコティンヒーター」を量産化
全国のホテルや病院に納入



1998年

国内最大規模の
ごみ焼却プラントを納入



2014年

FIT制度(※2)によるバイオマス発電
プラント初号機を納入
以降、多数のプラントを納入

2019年

バイオマス発電
プラントの
O&M事業(※3)を開始

1963年

日本初の連続式
ごみ焼却プラントを納入



1986年

海外で初めてごみ焼却
プラントを納入 (米国)



2010年

欧州で廃棄物発電
プラントを納入 (英国)



2015年

電力小売事業に参入
電力の地産地消を推進

※1 バガス焚きボイラ・・・サトウキビの搾りかすを燃料とするボイラ。バイオマス燃料の一種。

※2 FIT制度・・・再生可能エネルギーの固定価格買取制度。

※3 O&M・・・Operation & Maintenance プラントの運転管理とメンテナンス業務を一括して請け負う業務。

③ タクマグループの強み

創業以来、改良・改善を重ね蓄積してきた**技術・ノウハウ**と、アフターサービスやソリューションの提供等による長年にわたるお付き合いを通じて培われた**お客様との信頼関係**が、当社グループの強みであり、競争力の源泉です。



一般廃棄物処理 プラント



- ごみ焼却プラント：約**360**施設



水処理プラント



- ユニフロサンドフィルタ：約**2,700**台
- 汚泥焼却炉：約**20**施設



エネルギープラント



- ボイラ：約**3,200**基
- うちバイオマス：約**620**基
- 産業廃棄物処理プラント：約**120**施設



汎用ボイラ

- 真空式温水機
(パコティンヒーター)
- 貫流ボイラ (エクオス)
- 熱媒ボイラ (サーモヒーター)



建築設備・ 半導体産業用設備

- 空調・給排水衛生設備工事
- 半導体・電子デバイス産業向け各種装置



当社グループの強み

技術・ノウハウ

お客様との信頼関係

④ タクマグループのありたい姿(1/3)

中長期のトレンド・社会課題を踏まえ、**当社グループの強みを活かした事業活動**を通じて**ESG課題への取り組みを一層強化し、持続可能な社会の実現**に貢献します。

世界

- ・ 新興国を中心としたエネルギー需要増加、廃棄物問題
- ・ 気候変動問題の深刻化
- ・ 第4次産業革命の進展

日本

- ・ 人口減少・高齢化
- ・ 自然災害の甚大化
- ・ 財政逼迫
- ・ インフラの老朽化

ESG経営の推進

タクマグループの事業活動

- 一般廃棄物処理プラント
- 水処理プラント
- エネルギープラント
- 汎用ボイラ
- 建築設備・半導体産業用設備

当社グループの強み

- ・ 技術・ノウハウ
- ・ お客様との信頼関係

持続可能な社会の実現

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

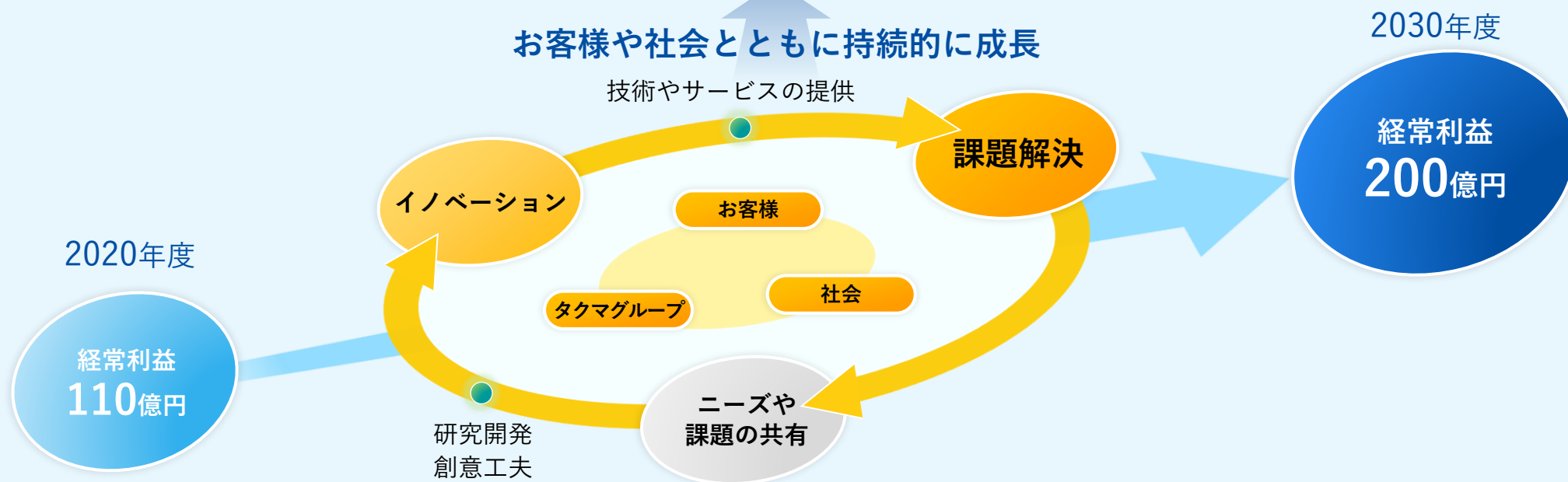


④ タクマグループのありたい姿(2/3)

事業活動の展開に際して、タクマグループは「**お客様の良きパートナー**」となり、不屈の発明家精神を継承した当社グループの「**イノベーション**」によって生み出された有益な技術・サービスをもってお客様や社会の課題を解決し、その繰り返しのによって**お客様とともに持続的に成長**してまいります。

これらの事業活動を通じてESG課題に取り組むことで持続可能な社会の実現に貢献し、「**再生可能エネルギーの活用と環境保全の分野を中心にリーディングカンパニーとして社会に必須の存在**」であり続け、10年後にありたい利益水準として『**経常利益 200億円**』を目指します。

再生可能エネルギーの活用と環境保全の分野を中心に
リーディングカンパニーとして社会に必須の存在であり続ける



④ タクマグループのありたい姿(3/3)

具体的には、**再生可能エネルギーの活用と環境保全の分野を中心**として、お客様の事業活動や行政サービス、地域社会や新興国等における各種**課題の解決へと繋がる技術やサービスを継続的に提供**する事業活動を展開し、**ESG課題へ取り組んで**いきます。この**ESG経営の推進**を通じて持続的な成長を目指します。

ESG経営の推進による持続的な成長

再生可能エネルギーの活用と環境保全の分野を中心にお客様や社会の課題解決を実現

技術やサービスの提供

- ・ クリーンエネルギーの拡大
- ・ 温室効果ガスの削減
- ・ 省エネルギー化
- ・ エネルギー効率の向上
- ・ 廃棄物の安定処理
- ・ 未利用資源の活用
- ・ CO₂回収と有効活用
- ・ 脱炭素関連技術
- ・ エネルギーの地産地消
- ・ プラント施設の省力化、省人化、強靱化

タクマグループの事業活動

EPC事業

各種プラント設計、調達、建設

リーディングカンパニーとしての
ポジションの維持・拡大

ストック型ビジネス

メンテナンス、運転管理、O&M、
エネルギーサービス 等
成長の中核を担うドライバー
として更なる拡大

海外事業

廃棄物発電プラント、バイオマス発電プラントの
EPC、アフターサービス
アジア新興国を中心に拡大、
グループ事業の柱の1つへと育成

民生熱エネルギー事業

広く熱源装置の専業メーカーとして
事業領域を拡大

設備・システム事業

企業力の強化により
着実な成長を図る

新規事業

再エネ・環境分野を中心に
新たな事業機会を創出